

住人十色

第
162
回



◎「家族のような温かさ」と会の魅力を語る皆さん。楽しい世間話に花が咲きます

本に親しむお母さんたちの憩いの場 読書グループの例会が節目の500回

「あざみ読書会」の皆さん

読書グループ「あざみ読書会」の例会が令和5年4月、500回の節目を迎えました。昭和56年の発足から41年間、本に親しむ活動を続けています。

会の始まりは内子小学校6年生の親子読書活動だったそうです。子どもの卒業後、「親だけでも本に親しもう」と保護者が呼びかけ、「母親読書クラブ」としてスタート。当時のクラス担任だった山本陽子さんが、ずっと活動を見守ってきました。

現在の会員は9人。山本さんは「例会では全員で同じ本を読み、感想を話し合おう。気心が知れているので何気ないおしゃべりの時間も楽しい」と笑います。本にまつわる場所を訪ねることもあり、大江健三郎さんの生家にみんなで行ったこともあります。活動の様子は毎月会報として発行。年に一度まとめる文集は41冊にも。「会員の感想や近況などを記録しているので、参加できなかった月の様子もよく分かる。これも長続きの秘訣かな」と山本さんは振り返ります。

同会の会長を務める幸田寿美子さんは「同じ作品でも、年齢を重ねるとまた違った感動がある。これからもみんなが無理なく楽しく会を続けたい」と思いを語りました。

編集 幸記

▽4月から広報担当になりました中村花楓です。砥部町出身で、おとし小田分校を卒業しました。社会人2年目のまだまだヒヨ子です。皆さんに顔と名前を覚えてもらえるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願ひします(花)

▽仕事中によく独り言をつぶやいてしまいます。意識はしていませんが、同僚からの視線を感じて、ボンボン喋っている自分に気付きます。仕事の邪魔をしないように気を付けなくちゃ。すみません、独り言でした(史)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

